

平成24年度病害虫発生予報第8号(11月予報)

今月のトピックス

ハンエンカタカイガラムシ (かんきつ)

学名 : *Saissetia coffeae*



成熟成虫



シークワサーに寄生する成虫



「工」字型隆起線

未成熟成虫



幼虫

生態と被害

ハンエンカタカイガラムシはカメムシ目カタカイガラムシ科に属しており、世界でも重要な農作物の害虫として知られている。雌成虫は体長2.5~3.5mm、広楕円形。未成熟成虫は淡褐~赤褐色で扁平で、背面に「工」字型隆起線を呈し、光沢があることで他種と区別できる。成熟すると背面は半球状に著しく隆起しながら硬化し、光沢のある黄褐~茶褐色を呈する。背面を隆起させると共に腹部に空間を作り数百卵産下し、卵を保護する。雄はみられず単為生殖を行う。本種は細枝、葉面、果梗に寄生し、発生が多いと生育が阻害され、落葉したり、枯死枝を生じる。特に多発すると分泌物や併発するすす病によって果実が汚れる2次の被害が生じ、甚大な被害をもたらす。

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichubojou/index.html>

I 11月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	40	30
平 年 並	30	30	40
低い(少ない)	50	30	30

(平成24年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

地点別の平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	22.1	24.6	19.9	110.2	123.0
宮古群島(宮古島)	22.7	25.0	20.8	146.9	112.0
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.1	156.5	115.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 11月の発生予報概要

作 物	病 害 虫 名	発 生 量		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	野そ	—	やや多	並
にがうり	うどんこ病	並	—	—
トマト	タバココナジラミ	並	—	—

III その他注意すべき病害虫等

※本文中では○(白丸)にて表記

作 物	病 害 虫 名	対 象 地 域		
		沖縄群島	宮古群島	八重山群島
さとうきび	カンシャシクイハマキ		○	○
	イネヨトウ	○	○	○
	トノサマバッタ・タイワソウチイナゴ	○		
かんきつ	かいよう病	○		
マンゴー	かいよう病	○	○	
かぼちゃ	定植時および生育初期の病害虫	○	○	○
にがうり(施設)	定植時および生育初期の病害虫	○	○	
とうがん(施設)	定植時および生育初期の病害虫		○	
小ぎく (年末出荷用)	アザミウマ類	○		

☆ 予報の見方 ☆

「発生程度」は平年との比較を示しています。そのため、毎年その月で高い数値が続いた場合には、その月の「発生程度」は密度が高くても「並」として発表されます。前月との多少の比較はグラフを参考にしてください。

- ◇ 一般的な病害虫防除対策について ◇
- a 多発すると防除が困難になるので、早期発見・早期防除に努める。
- b 薬剤抵抗性害虫や薬剤耐性菌が発現しないようローテーション散布に努める。
- c 薬剤散布の際は、近隣作物へのドリフト(飛散)に注意する。
- d 防除効果を高めるため、むらのないよう丁寧に散布する。
- e 過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- f 多湿にならないよう、圃場の排水をよくする。
- g 病原菌は雨水や風で伝搬されるので、ビニールの破れ等を補修する。
- h 発生源となる施設内外の雑草を除去する。

平成24年度沖縄群島病害虫発生予報第8号(11月予報)

I 11月の気象予報

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	30
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	30	30

(平成24年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

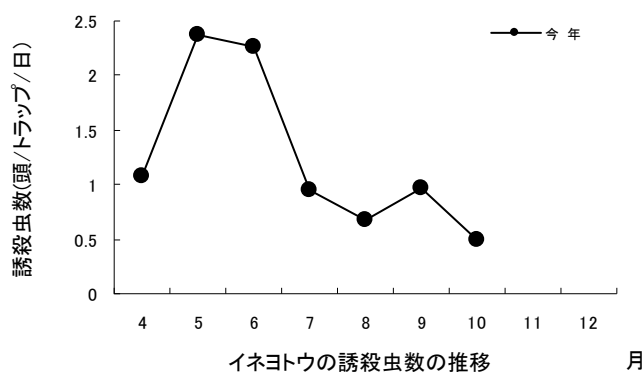
	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
沖縄群島(那覇)	22.1	24.6	19.9	110.2	123.0

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

II 11月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

- イネヨトウの防除対策
 - a 10月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.1%(前年1.3%、平年0.7%)と平年より低かった。
 - b 10月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.5頭であった。
 - c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号参照(平成24年9月21日付)。

- トノサマバッタ・タイワンツチイナゴの防除対策
 - a 10月下旬の病害虫防除員からの報告によると、沖縄本島南部の一部圃場でタイワンツチイナゴ、伊江島・南大東島の一部圃場でトノサマバッタの多発生がみられた。
 - b 成虫が不活発な朝夕を中心に薬剤防除を行う。
 - c 平成24年度病害虫発生予察技術情報第2号参照(平成24年4月27日付)。

2 かんきつ

- かいよう病の防除対策
 - a 10月下旬の調査の結果、たんかんの発病果率は0%（前年0%、平年8.0%）と平年より低く、シークワサーの発病果率は13.3%（前年2.0%）であった。
 - b 病害虫防除員からの報告によると、発生程度はたんかんで中発生、シークワサーで多発生であった。
 - c 罹病した夏秋枝は翌年の伝染源となるので除去する。
 - d 秋芽のミカンハモグリガの穿孔から病原菌が侵入しやすいので、同虫の防除を徹底する。
 - e 発生がみられる圃場では、薬剤による防除を徹底する。

3 マンゴー

- かいよう病の防除対策
 - a 10月下旬の調査の結果、一部施設で発生が多くみられた。
 - b 台風17号の強風による折損等の傷から細菌が侵入し発病したと考えられた。
 - c 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
 - d 罹病枝を剪定した器具は消毒する。
 - e 薬剤散布を行うと共に、罹病枝剪定後の切り口に殺菌塗布剤を施用する。

4 かぼちゃ

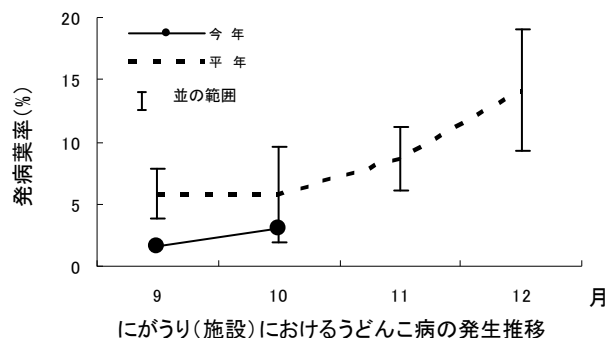
- 定植時および生育初期の防除対策
 - a ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの防除対策として、定植時に粒剤を施用する。
 - b 害虫の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
 - c ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。

5 にがうり(施設)

(1) うどんこ病

発生程度 : 並
予報の根拠

10月下旬の調査の結果、発病葉率は3.0%（前年4.8%、平年5.8%）と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

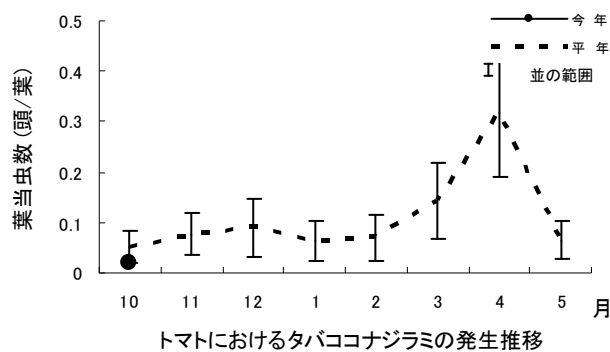
老葉や病葉は発生源となるので、圃場内に放置せず、ビニール袋等に入れるなどして持ち出し処分し、透光通風を良くする。

- 定植時および生育初期の病害虫防除対策
 - a 例年この時期には、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類などの被害がみられる。
 - b 誘引ネットより下の側枝や葉、圃場内外の雑草は病害虫の発生源となるので除去する。
 - c 定植時に粒剤を施用する。
 - d ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また、媒介虫の薬剤による防除を行う。

6 トマト

- (1) タバココナジラミ
発生程度 : 並
予報の根拠

10月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.02頭(前年0.03頭、平年0.05頭)と平年並であった。



<防除上注意すべき事項>

- a 本種はトマト黄化葉巻病を媒介する。
- b 多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- c 施設開口部には0.6mm以下の目合いの細かい防虫ネットを展張し、本種の侵入を防止する。
- d 黄色粘着テープ等により、タバココナジラミの早期発見・早期防除に努める。
- e 幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- f 薬剤散布の際にはマルハナバチに影響の少ない薬剤を選定する。
- g 平成24年度病害虫発生予察技術情報第6号(平成24年9月28日付)参照。

7 小ぎく(年末出荷用)

- アザミウマ類の防除対策
 - a 10月下旬の調査の結果、一部の圃場で発生が多くみられた。
 - b 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
 - c 定植時に粒剤を施用する。
 - d 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
 - e 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
 - f 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる成長段階であっても、同時に防除を行う。
 - g 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

平成24年度宮古群島病虫害発生予報第8号(11月予報)

I 11月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	気 温	降 水 量	日照時間
高い(多い)	20	40	30
平 年 並	30	30	40
低い(少ない)	50	30	30

(平成24年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
宮古群島(宮古島)	22.7	25.0	20.8	146.9	112.0

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

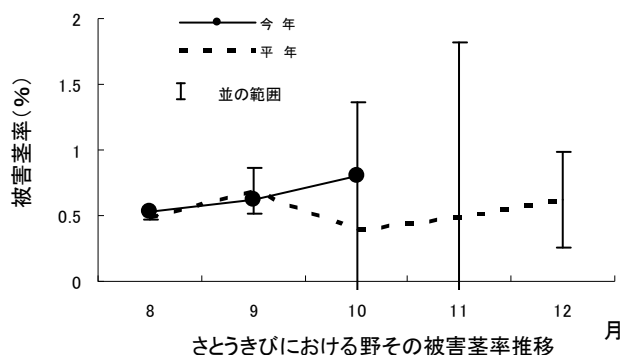
II 11月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) 野そ

発生程度 : やや多
予報の根拠

10月中旬の調査の結果、被害茎率は0.8%(前年0.1%、平年0.4%)と平年よりやや多かった。

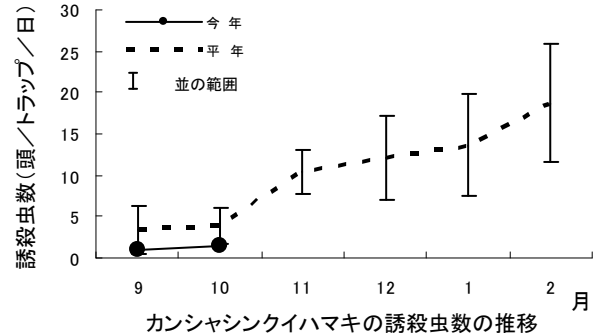
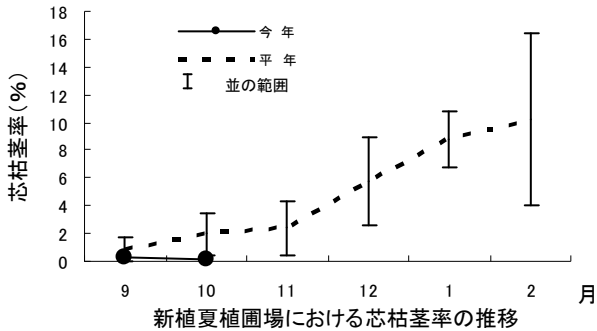


<防除上注意すべき事項>

- a 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- b 剥葉残渣などの野積みに巣を作ることから、野積みを行わない。
- c 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 10月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.1%(前年2.1%、平年1.9%)と平年よりやや少なかった。
- b 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.4頭(前年4.8頭、平年3.8頭)と平年よりやや少なかった。

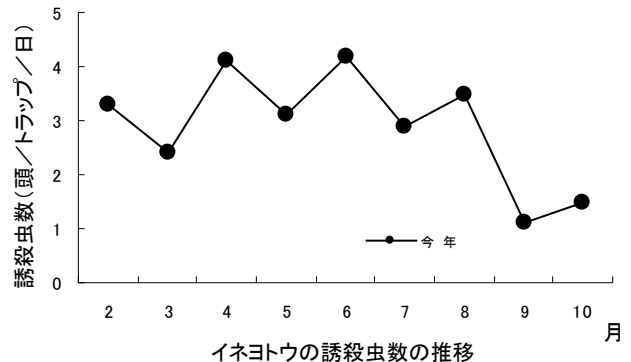
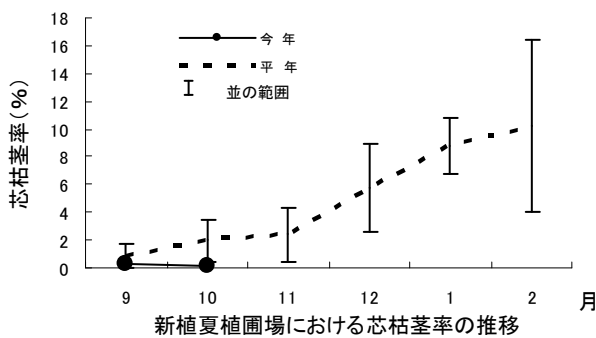


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
- c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 10月中旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は0.1%(前年2.1%、平年1.9%)と平年よりやや少なかった。
- b 10月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は1.5頭であった。
- c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
- b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

2 マンゴー

○ かいよう病の防除対策

- a 10月中旬の調査の結果、一部施設で発生がみられた。
- b 台風等による折損等の傷から細菌が侵入し発病する。
- c 罹病した部位は速やかに施設外に持ち出し、焼却等の処分を行う。
- d 罹病枝を剪定した後の剪定器具の消毒を徹底する。

3 かぼちゃ

- 定植時および生育初期の病害虫防除対策
 - a ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの防除対策として、定植時に粒剤を施用する。
 - b 害虫の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
 - c ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。

4 にがうり(施設)

- 定植時および生育初期の病害虫防除対策
 - a 例年この時期には、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類などの被害がみられる。
 - b 誘引ネットより下の側枝や葉、圃場内外の雑草は病害虫の発生源となるので除去する。
 - c 定植時に粒剤を施用する。
 - d ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また、媒介虫の薬剤による防除を行う。

5 とうがん(施設)

- 定植時および生育初期の病害虫防除対策
 - a 例年この時期には、ウイルス病を媒介するアブラムシ類、アザミウマ類をはじめ、コナジラミ類などの被害がみられる。
 - b 誘引ネットより下の側枝や葉、圃場内外の雑草は病害虫の発生源となるので除去する。
 - c 定植時に粒剤を施用する。
 - d ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。また、媒介虫の薬剤による防除を行う。

平成24年度八重山群島病害虫発生予報第8号(11月予報)

I 11月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	40	30
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	30	30

(平成24年10月26日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温(°C)	最高気温(°C)	最低気温(°C)	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.1	156.5	115.8

(沖縄気象台発表・統計期間1981～2010・資料年数30年)

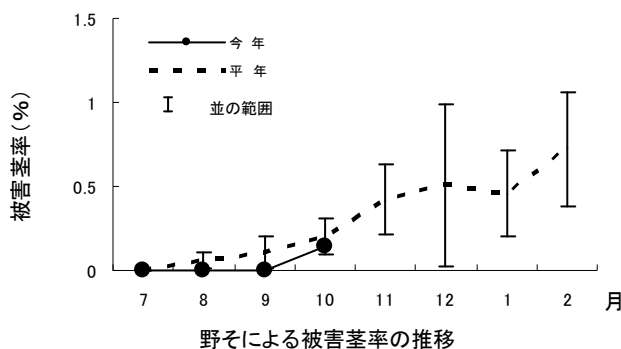
II 11月の発生予報および防除上の注意事項

1 さとうきび

(1) 野そ

発生程度 : 並

10月下旬の調査の結果、被害茎率は0.1%(前年0%、平年0.2%)と平年並であった。

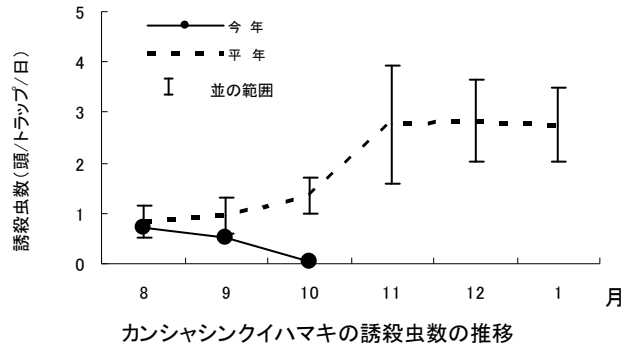
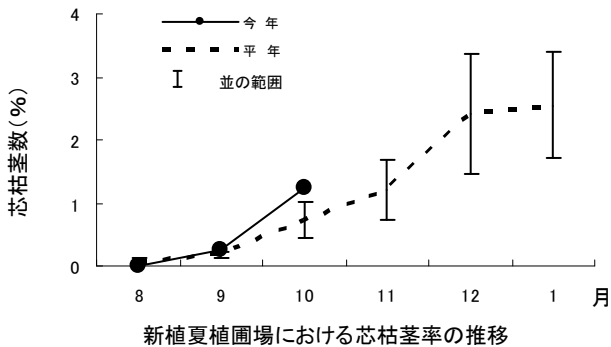


<防除上注意すべき事項>

- a 雑草が繁茂した環境を好むことから、除草を行う。
- b 被害の多い地域では、薬剤による一斉防除を行う。

○ カンシャシクイハマキの防除対策

- a 10月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.2%(平年0.7%、前年1.0%)と平年よりやや多かった。
 b 10月のカンシャシクイハマキ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は0.1頭未満(前年0.8頭、平年1.4頭)と平年より少なかった。

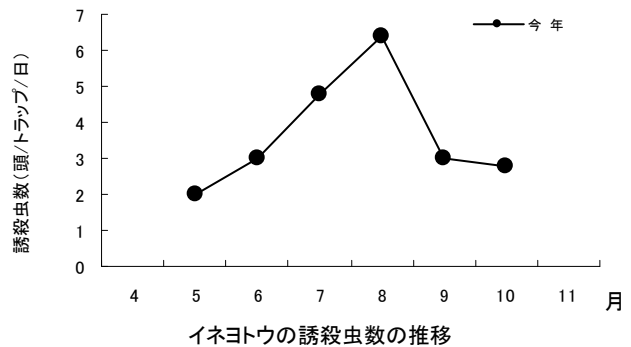
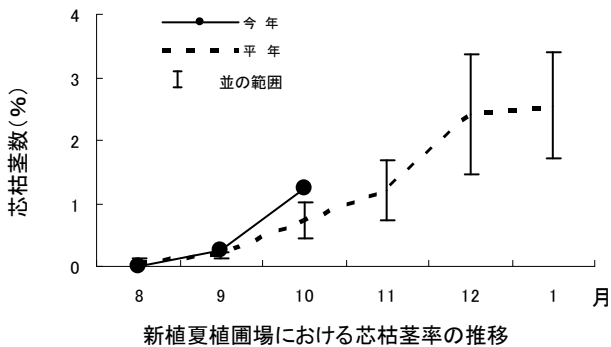


<防除上注意すべき事項>

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
 b 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。
 c 圃場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
 d 植付け時及び培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
 e 平成24年度病害虫発生予察技術情報第1号参照(平成24年4月5日付)。

○ イネヨトウの防除対策

- a 10月下旬の調査の結果、新植夏植圃場における芯枯茎率は1.2%(平年0.7%、前年1.0%)と平年よりやや多かった。
 b 10月のイネヨトウ合成性フェロモントラップによるトラップ当たり日当たり誘殺虫数は2.8頭であった。
 c 与那国島において、イネヨトウの被害が多発した際の誘殺虫数は2頭以上であった。



<防除上注意すべき事項>

- a カンシャシクイハマキの防除上注意すべき事項を参照。
 b 平成24年度病害虫発生予察技術情報第5号(平成24年9月21日付)参照。

2 かぼちゃ

○ 定植時および生育初期の病害虫防除対策

- a ウイルス病を媒介するアブラムシ類をはじめ、コナジラミ類、ハモグリバエ類などの防除対策として、定植時に粒剤を施用する。
 b 害虫の飛来侵入を防止するため、畦ごとに防風ネットを設置するか、防虫ネットによるトンネル被覆を行う。
 c ウイルス病に感染した株は抜き取って圃場外に持ち出し処分する。健全株への感染を防ぐため、抜き取りは他の管理作業の終了後に行う。

詳しくは下記へお問い合わせ下さい



沖縄県病害虫防除技術センター

ホームページアドレス

<http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>

本 所	〒902-0072 那覇市字真地123 TEL 098-886-3880、098-886-0227 FAX 098-884-9119
宮古駐在	〒906-0012 宮古島市平良字西里2071-40(農研センター宮古島支所内) TEL 0980-73-2634 FAX 0980-72-6474
八重山駐在	〒907-0003 石垣市平得地底原1178-6(農研センター石垣支所内) TEL 0980-82-4933 FAX 0980-83-1157